

地域再生計画 事後評価

名称	宇和島市「自然と歴史文化を尊重し快適に暮らせるまちづくり」 計画
----	-------------------------------------

平成25年1月

宇和島市

地域再生法に基づく地域再生計画の事後評価

1. 地域再生計画の概要

計画名称	宇和島市「自然と歴史文化を尊重し快適に暮らせるまちづくり」計画
作成主体	愛媛県、宇和島市
計画区域	宇和島市の全域
支援措置	地域再生基盤強化交付金（道整備交付金）
認定日等	平成 19 年 3 月 30 日
変更日	平成 22 年 3 月 23 日、平成 22 年 6 月 30 日
計画主旨	宇和島市は、豊かな自然に恵まれ、数多くの文化財、歴史薫る町並み、郷土芸能、独自の文化が大切に保存・伝承されている。しかし、山間部等の周辺地域では、アクセス道路が一路線しかない場合が多く、急峻な地形により整備が遅れているため、交通の傷害になっている。そこで、道整備交付金による林道の整備を行い、間伐による森林機能の回復や適正な管理、木材搬出の効率化等の林業振興を図るとともに、集落内の道路整備を行うことで、交流人口を増加させ、地域活性化を目指す。

2. 地域再生計画に記載した目標の達成状況

	目標	目標値	従前値	実績値	目標達成度
目標 1	暮らしやすさの満足度向上	40% 50% (参考：平成18年アンケート調査結果において「満足している」と回答した人の割合40%)	40%	48%	96%
目標 2	交流人口の増加 (10%の増加)	全体 32.2万人 35万人	32.2万人	147万人	420%
		農林水産業を活用したイベント参加者 8.2万人 9.0万人	8.2万人	128万人	-
		うわじま牛鬼まつり、闘牛の観光客 24万人 26万人	24万人	19万人	-
目標 3	間伐実施面積の向上	100ha	-	205ha	205%

3. 目標を達成するために行う事業の実施結果

(地域再生法第5章の特別の措置を適用して行う事業：道整備交付金)

(市道)							
路線名		事業期間		事業量	事業費	交付金	実施結果
		開始	完成				
成川線	実績	H19	H23	426.15m	124,794千円	62,397千円	事業量については、急峻な地形で工事費が増加したため下回る結果となった。事業費については同じ理由で上回った。
	計画	H19	H23	600m	74,500千円	37,250千円	
法花津中央線・和田線	実績	H20	H22	62.00m	99,554千円	49,777千円	事業量については、区間の中で優先する箇所を整備を行ったため下回る結果となった。事業費については、家屋の補償に費用がかかり上回った。
	計画	H20	H23	430m	97,100千円	48,550千円	
岩松線	実績	H19	H22	149.80m	572,860千円	286,430千円	事業量については、取付部の整備も行ったため上回る結果となった。事業費については、工事入札による低い落札で下回った。
	計画	H19	H23	118m	630,500千円	315,250千円	
上光満平駄馬線	実績	H20	H22	194.40m	57,702千円	28,851千円	事業量については、区間の中で優先する箇所を整備を行ったため下回る結果となった。事業費については、急峻な地形で工事費が増加したため上回った。
	計画	H20	H23	400m	48,100千円	24,050千円	
新田町宮の下線	実績	H19	H19	105.70m	61,282千円	30,641千円	事業量については、計画通りとなった。事業費については、工事入札による低い落札で下回った。
	計画	H19	H19	100m	80,000千円	40,000千円	
三浦西16号線	実績	H20	H21	121.67m	22,500千円	11,250千円	事業量については、区間の中で優先する箇所を整備を行ったため下回る結果となった。事業費については、工事入札による低い落札で下回った。
	計画	H20	H21	700m	30,000千円	15,000千円	
中央線	実績	H22	H22	106.40m	50,308千円	25,154千円	事業量については、計画通りとなった。事業費については、工事入札による低い落札で下回った。
	計画	H22	H23	100m	53,000千円	26,500千円	
市道計	実績	H19	H23	1166.12m	989,000千円	494,500千円	
	計画	H19	H23	2448m	1,013,200千円	506,600千円	
(林道)							
路線名		事業期間		事業量	事業費	交付金	実施結果
		開始	完成				
黒井地支線	実績	H19	H23	965.10m	72,244千円	36,122千円	事業量、事業費とも概ね計画とおりの結果となっている。
	計画	H19	H23	950m	70,300千円	35,150千円	
串小屋支線	実績	H19	H23	3164.60m	43,263千円	14,421千円	林道全体の内、一部を広域林道に編入したため、事業量、事業費とも計画を下回っている。
	計画	H19	H23	5000m	60,000千円	20,000千円	
小祝線	実績	H19	H19	605.90m	9,984千円	2,995千円	事業費については、概ね計画とおりますが、整備箇所を地元と調整した結果、事業量は計画を下回っている。
	計画	H19	H19	2900m	10,000千円	3,000千円	
成谷線	実績	H22	H22	443.20m	8,979千円	2,993千円	事業量、事業費とも概ね計画とおりの結果となっている。
	計画	H22	H22	443.2m	10,000千円	3,333千円	
林道計	実績	H19	H23	5178.80m	134,470千円	56,531千円	
	計画	H19	H23	9293.2m	150,300千円	61,483千円	

4. 目標を達成するために行う事業の実施結果

(その他の事業)

事業内容	内容	検証
市単独事業による市道整備	都市下水管理道を市道長堀17号線に市道認定、平成17～18年度に市単独事業で整備し、道路網の充実を図りました。幅員4m、延長106mを整備。	市道沿線に住宅が建築され、定住の促進が図られた。
四国横断自動車道の整備	平成22年3月27日 宇和島南IC～津島高田IC開通、平成24年3月10日 宇和島北IC～西予宇和IC開通。 交通量:6,571台(H23.10.23) 11,337台(H24.9.9) (4,766台/日増加)朝日町交差点(休日24時間交通量)	県都松山市から1時間程度でつながることにより交流人口が増加し、県外からの観光客の増加も見込まれる。
岩松地区町並み保存計画	昭和30年代以前に建設された伝統的建造物が多く残されており、家屋調査や保存対策の検討、地域文化を活かしたイベントなどを実施している。岩松橋の架け替えにより、大型バスによる観光客の受け入れが可能となり、酒蔵見学や、どぶろくの試飲等により観光客を集めている。	とぶろく特区の認定(H19.3.30)を受け、地域活性化に貢献している。
宇和島牛鬼まつり	毎年7月22～24日に行われる宇和島の夏を代表する祭りである。牛鬼パレード、ガイヤカーニバル、宇和島おどり大会、走り込み、花火大会などが開催され、周辺地域はもちろん県外からも多くの見物客を迎えるイベントである。交流人口:20万人(H19) 19万人(H23)	例年通りの企画となり、第1次産業の冷え込み、中心市街地の低迷も重なり交流人口は減少している。
宇和島市産業まつり	中心市街地の商店街で11月に開催される、農林水産物をはじめとする地場産業の特産品や郷土料理を一堂に集めた展示即売、もちまき大会など様々な催しが開催される。平成21年4月26日には、地元産品販売所「きさいや広場」が完成し、メイン会場を2箇所置くことでよりいっそうの集客を図っている。交流人口:4.8万人(H19) 7万人(H23)	様々な企画が実施され、「きさいや広場」との相乗効果で交流人口が増加している。
農林水産物直売・食材提供施設 (通称:だんだん茶屋)	平成19年7月26日に国の重要文化的景観に選定された、水荷浦地区のだんだん畑を観光資源として活用すると共に、地元の食材を提供する施設を設け、都市部との交流イベント「だんだん祭り」等のイベントを開催し、都市住民との交流が図られている。交流人口:0.3万人(H19) 0.4万人(H23)	重要文化的景観の選定を受け観光バソレットにも多く掲載され、都市部からの集客が図られている。
津島しらうおまつり	毎年1月末の日曜日に開催される津島に春を告げる祭りであり、しらうお漁の体験、郷土料理や地域特産品の即売が行われ、岩松川の自然に親しむとともに消費者との交流が図られている。交流人口:1.8万人(H19) 1万人(H23)	例年通りの企画となり、第1次産業の冷え込みで交流人口は減少している。高速道路の開通で今後は、市外の集客が期待される。
コスモスまつり	毎年11月初旬に三間町中山池自然公園で行われ、東京ドームの約3.6倍の広さにコスモスが満開となる会場で、地域特産品の展示即売のほか毎年趣向を凝らした盛りだくさんの催し物が開催されている。交流人口:3万人(H19) 1.5万人(H23)	各地で同様の企画が行われ、交流人口は減少傾向である。特に天候の影響を受けた。
闘牛大会	宇和島の観光の目玉ともなっている闘牛は、直径20メートルの土俵上で1トンを越える巨大な牛が激突するのを見ることができる。市営闘牛場にて、年5回の定期大会が開催される他、観光闘牛も行われている。交流人口:0.5万人(H19) 0.4万人(H23)	例年通りの企画となり、第1次産業の冷え込み、中心市街地の低迷も重なり交流人口は減少している。
林内作業路の開設	林道整備箇所では、林内作業路を開設して、木材生産及び間伐に伴う搬出作業の省力化を図っている。	林内作業路 L=3,000mを開設
森林整備の実施	森林整備地域活動支援交付金制度、県造林補助事業を活用して、森林整備を効率的に実施している。	雑木林の除去・間伐林内整備、高齢級搬出間伐を行っている。

5. 総合評価及び今後の方向性

今回の整備により、定住化を促進し安心して快適に暮らせる地域、生産者と消費者及び地域住民と訪問者の交流を促進することにより活気ある地域を目指すといった、地域再生計画の目標は概ね達成できたと思われます。

個別の目標達成状況については以下のとおりとなっています。暮らしやすさの満足度向上については、目標の50%を下回る結果となりましたが、全般的には道整備、農林業の基盤整備に満足している人が増えており、特に身近に道整備事業により市道、林道が改良された住民の方は満足する割合が高い結果となりました。

交流人口の増加については、平成21年4月に「きさいや広場」がオープンしたことが貢献し、相乗効果を発揮し、全体では100万人を越える増加となり大幅に目標を上回る結果となりました。しかしながら、うわじま牛鬼まつり、鬪牛大会については目標の26万人に対し19万人と目標を下回る結果となり、少子高齢化、第一次産業の冷え込み、中心市街地の低迷に伴う年々の減少傾向に歯止めを掛けることは出来なかったものと思われます。

間伐材の伐採については、期間中の森林整備実績が約205haとなり目標の100haを大幅に上回る結果となりました。

尚、市道 成川線、市道 上光満平駄馬線、市道 三浦西16号線、林道 黒井地支線の4路線については、平成24年3月29日に、「地域の共助と安心安全で活力あるまちづくり」計画として新たな地域再生計画の認定を受け、平成24年度～平成28年度の5ヶ年を事業期間として、現在整備を行っています。

今後は、地域再生計画評価委員会において検証された様々な課題について、積極的に取り組み「自然と歴史文化を尊重し快適に暮らせるまちづくり」を目指していきたいと考えます。